

着々と開発が進むチェンナイ近郊の工業団地

田中 啓介

＜日系企業が集まるチェンナイ

近郊の工業団地＞

チェンナイ近郊で民間の工業団地といえば、チェンナイ市内から北へ約 80 キロ北上したアンドラ・プラデッシュ州最大の工業団地「Sricity（スリシティ）」と、チェンナイ市内から南へ約 50 キロ南下した「OneHub Chennai（ワンハブチェンナイ）」があり、仕事、生活、教育、娯楽施設まで一体型にした“モデルタウン”を実現するというコンセプトの元、構想・開発された工業団地として存在感を示しています。

モデルタウンの実現にはまだもう少し時間がかかりそうですが、現在すでに、いすゞ自動車やコベルコ建機、ユニチャーム、日本発条、マルちゃん味の素、日立オートモティブ、ヤマハミュージックなど、すでに多くの日系企業が入居しており、スリシティだけでも 20 社近くの日系企業、50 社超の外資系製造企業が進出しており、州政府の工業団地であるオラガダムやスリペルンブドゥールの工業地帯 SIPCOT を含め、自動車産業を中心とした部品メーカーを含む製造業の集積が着々と進んでいます。



(建設が進む MIPC : マヒンドラ工業団地)

写真上・右

＜新たに開発が進む日系企業向け

工業団地の誕生＞

また、大手日系商社がインド地場企業との合併により新たにチェンナイ近郊で開発が進められている工業団地もあります。一つは双日マザーソングループと開発を進める「SMIP（双日マザーソン工業団地）」で、チェンナイ市内から西へ約 60 キロ行ったところにあります。そして、もう一つは住友商事がマヒンドラグループと開発を進める「MIPC（マヒンドラ工業団地）」で、チェンナイ市内から北へ約 40 キロ北上したところにあります。

SMIP はすでに多くの日系企業が進出するオラガダムやスリペルンブドゥールから程近い場所にあり、約 115 ヘクタールの土地にこれまでなかった中小企業向けのレンタル工場も整備される予定です。また、MIPC は上述の AP 州最大の工業団地スリシティに向かう途中にあり、約 110 ヘクタールの土地に日系企業向けの基礎インフラが整った工業団地開発が着々と進められています。多くのエンジニアが住む町 Gummudipoondi（グムニプンディ）の近くにあり、かつ、チェンナイ市内からも比較的近くアクセスが良いため、売り出して間もなく、すでに入居を決めた日系企業もいるようです。

チェンナイ市内ではここ数年で多くの日本食レストランや大型ショッピングモールも建設されており、投資環境が少しずつ改善されている中で、今後ますます多くの日系企業が進出してくることが期待されます。

